

平成24年度研究成果報告書 <<平成23・24年度教育課程研究指定校事業>>

ふりがな ふりがな 幼稚園・学校名 (園児, 児童生徒数)	ひろしまけんふくやましりつみのしょうがっこう 広島県福山市立御野小学校 (319人)
--	---

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：広島県福山市神辺町字下御領28

電話番号：084-966-0242

メールアドレス：shou-mino@edu.city.fukuyama.hiroshima.jp

学校のホームページのURL：http://www.edu.city.fukuyama.hiroshima.jp/shou-mino/

【研究成果のポイント】

- 研究対象教科等：社会科
- 研究のキーワード：問いをつなぐ授業づくり, 問いと知識の構造図, 教材研究ノート, 練り合いの場面における言語活動の充実
- 研究成果のポイント：
 - ・問いをつなぐ問題解決的な授業モデルの確立
 - ・「問いと知識の構造図」を生かした指導計画づくり
 - ・問いをつなぐ授業づくりのための手立て

【研究の目的, 研究内容】

(1) 研究主題

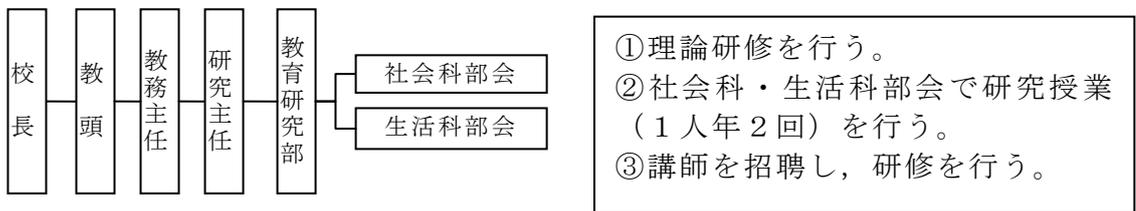
問い続け, 学び続ける子どもの育成を目指した社会科授業の在り方
 ～言語活動の充実を通して～

(2) 研究主題設定の理由

新学習指導要領では, 基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ, これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育て, 主体的に学習に取り組む態度を培うことが求められている。

このことは, 本校がこれまで社会科を通して取り組んできたテーマ「問い続け, 学び続ける子どもの育成」と軌を一にするものである。本校が考える「問い続け, 学び続ける子ども」とは, 現状の自分に立ち止まることなく, 変化し続ける社会に対応して, 自らに必要なことを積極的に学び続け, 吸収し続けることができる人間の育成である。そこで, ①主体的に社会的事象や学習対象に働きかけようとする関心や意欲と, ②自力で問題解決に取り組むことができる能力を育てる社会科の授業の在り方を研究し, 子どもの言語表現から, 手立ての有効性を検証することとした。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組の経過

平成23年度	4月～8月	○理論研修(授業展開を共通理解) ○児童実態調査・分析 ○研究授業, 授業改善・授業公開(福山市教育委員会・関連学校) ○公開研究会指導案検討(全体研修)
	9月～12月	○公開研究会(全学級授業公開 講師: 澤井陽介調査官) ○児童実態調査・分析
	1月～3月	○児童実態調査・分析 ○1年次のまとめ(成果・課題)

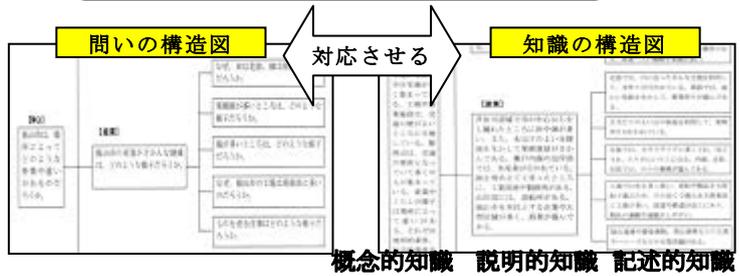
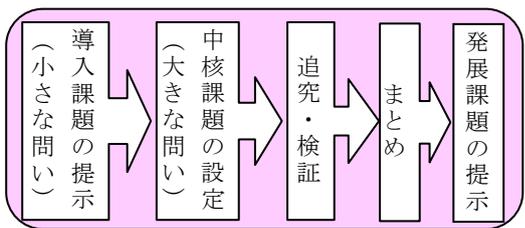
平成24年度	4月～8月	○理論研修（授業展開を共通理解）○児童実態調査・分析 ○研究授業，授業改善・授業公開（福山市教育委員会・関連学校） ○公開研究会指導案検討（全体研修 講師：中本和彦先生）
	9月～12月	○公開研究会（全学級授業公開 講師：澤井陽介調査官） ○児童実態調査・分析
	1月～3月	○児童実態調査・分析 ○研究授業 ○2年次のまとめ（成果・課題）

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

ア 問いをつなぐ問題解決的な授業モデルを確立する。

①子どもの問いを生かした導入課題，中核課題，発展課題の設定

②指導計画における「問いと知識の構造図」の意義



イ 問いをつなぐ授業づくりのための手立てを工夫する。

①効果的な体験活動や資料提示の工夫

②練り合いの場面における言語活動の充実

③言語による「まとめ方」や「伝え方」の日常的な指導

グラフによる比較



学習形態の工夫

発問の工夫

ワークシートの工夫



伝え方 4つのポイント

- 簡で短く伝える。
「～と分かりました。その理由は、～」
- 簡潔に伝える。
「～と承ります。わけは、～」
- あみだで意見交換。
「～さんの意見と違って、～」
「～さんに付けて、～」
- まとめる。集約する。
「つまり、～」 「例えば、～」 「私たちは、～」

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

- 単元における「問いと知識の構造図」を作成し，授業に生かしていくことで，目標や中心概念を明確にした授業づくりをすることができた。
- 資料提示の仕方を工夫したり，発問を工夫したりすることで，子どもが自ら問いをもち，主体的に社会的事象や学習対象に働きかけようとする関心や意欲が高まっている。
- 児童の思考の流れを考え，中核課題への流れが固定的なものにならないよう，事象の違いやずれ，驚きなどを大切にした課題づくりを行うことが課題である。

(2) 研究成果の意義等

- 「問いと知識の構造図」は，今後とも各教師が単元計画を立案する際の基礎資料として，本校はもとより地域各校の財産となる。
- 「問いをつなぐ問題解決的な授業展開」は，問題解決的な学習の充実策の1モデルとなる。1時間ごとの授業展開を板書と併せて参考にすることで，若手教師や社会の授業を得意としない教師にとって活用しやすい資料モデルとなる。
- 知識の構造図は知識や概念の確実な習得を研究する際の，また問いの構造図は思考力・判断力・表現力の育成を研究する際の，それぞれ貴重な資料となる。

(3) 指定期間終了後の取組

- 「問いをつなぐ授業展開」及び「問いと知識の構造図」の意義をHP及び来年度の公開研究会を通して，他校に広めていく。
- 知識の習得だけでなく，概念形成に導くため，学習の終末に全体を統合して捉える，振り返りの指導に取り組む。